

1面からのつづき

善行金章を受賞して

沖縄県本部町
崎濱 秀進



この度は、荣誉ある特別善行金章を賜り心から御礼申し上げます。私の活動の始まりは、長年に渡り小中学校のPTA役員としての活動からでした。この頃は地域の子どもは地域で育てるのが当たり前の時期であり、地域の協力

者も多く役員としてもやりやすい環境であり、子ども会の事や問題が起きると学校や地域で話し合いを持ち解決しました。その後は少年補導員を四十八年も続けてボーイスカウトの隊長を務め、沖縄県で開催された海洋博のため結成された九十八名による海洋少年団の隊長を務め、子どもたちとふれあい、ボランティアとして携わって参りました。現在、その子どもたちが立派な社会人となり善行の心を忘れずに成長し、頑張っている姿を見て嬉しく思います。

今後とも地域の青少年健全育成と明るい街づくりに貢献してまいります。

●●銀 章●● 多くの出逢いに感謝!

岩手県奥州市
及川 弘子



この度、特別善行銀章を賜り厚く御礼申し上げます。善行会の会員として諸先輩方の活動の輪に入り三十余年が過ぎました。

「子どもたちの手で子ども会運営をさせたい」こんな思いで私のボランティアが始まりました。

令和四年度特別善行表彰を受賞して

岩手県釜石市
川村金次郎



この度、令和四年度特別善行表彰の金章を賜り身に余る光栄と心から厚く感謝申し上げます。

私が、当地域で安全で安心な住みよい地域づくりをめざして多年に亘り、交通安全諸活動を推進していた平成初年度頃と地域の交通状況等が大きく変わり、交通事故の発生が多発し

増加傾向に進展しつつあり、現状を「ゼロ」にする対策として高齢者を中心に、事故防止の一環として高齢者宅の訪問活動をする事を企画し、小・中学校の協力を得て交通安全事故防止の交通安全メッセージを作成、児童生徒と持参して高齢者宅を一緒に訪問し、「交通安全メッセージ」を読み、手渡ししながら事故防止の呼びかけ活動を推進して参りました。

また、子どもたちや高齢者を守るため、路上より東日本震災復興工事車両(大型ダンプ)等にも「安全メッセージ」を手渡し、交通安全防止の呼びかけ活動を推進して参りました。

その結果、平成十三年以降、甲子地域での交通事故による死者は「ゼロ」を記録しております。小中学校生を含む地域住民や関係者が心一つに、交通安全活動に精進した賜物と存じます。今後も健康に留意して交通安全啓発・諸活動に善行精神を持って、交通事故による死者「ゼロ」を守り継続し、明るく住みよい地域社会作り、健康である限り尽力して参ります。

令和四年度の善行金章を賜り、川村金次郎(九十三歳)に取りまして、生涯の宝物として大切にいたします。善行会本部、皆さまのご健勝をご祈念申し上げます。

新会員名簿(敬称略)

- (網走支部) 門馬惠彦(釧根支部) 白浜正宣、田中郁子、中野吉次(遠紋地区支部) 阿部ゆり子、五十嵐瑞穂、小山田一幸、渡辺勉(青森支部) 天内きよ系、一戸朝江、多田ヒサ、木村三成、工藤正子、工藤孝史、佐々木タマ、渡邊慶隆(岩手県宮古支部) 大森富夫(宮城支部) 阿部澄江、千葉初子、渡部正春、相原喜内、金井恭子、金子賢司、武田英明、中埜節子、星宏子、松浦昭夫(仙台支部) 大川満千子、那須正行(栃木県南支部) 小口つね子、谷田貝芳子、入江悠策、山中睦夫(桐生支部) 岸和田肇(群馬県北毛支部) 新井良光、小田橋春吉、金井久治、斉藤益生、佐藤浩、下田晶子、南雲富士夫、根井秀男、諸田孝、山村誠(千葉支部) 株式会社京葉美装(大田区支部) 石垣晴子(渋谷支部) 中村寿徳(杉並区) 平方成治(北区支部) 小川孝(練馬支部) 木下直江、久保有子、富塚眞佐子(葛飾支部) 會田勝康、今井ルミ子、岩田敦子、清水孝吉、田牧邦江(西東京支部) 近藤征子、笹川義夫(山梨県甲府支部) 永田友美(福井支部) 上坂弥寿子(静岡県浜松支部) 二橋佐知、藤原あかね、吉川桂子(愛知県支部) 鳥越進、渡邊みづ糸(愛知県名古屋支部) 伊藤由美、坂野武司、竹内良子、土屋由美子(京都府支部) 岡本幸三、清水博、中村初太郎、藤井充博(大阪府吹田支部) 上田裕行、中澤忍、中山安信、松森一夫、山本保治、山本慎治(兵庫支部) 井上仁、井上智津子、岩本博幸、植田延生、黒田泰正、古石美保、後藤田万亀、近藤和子、近藤辰子、佐々木智子、竹内健二、辻元恵子、花神和美、平石榮重、又吉健二、的埜晃大、山本泰通(岡山支部) 佐々木淳邦(徳島支部) 土井秀太(香川県支部) 馬場信子、渡辺正則(福岡県福岡支部) 羽根正俊、池田さよ子(福岡県筑後支部) 推窓和彦、長瀬憲治(長崎県佐世保支部) 大村正義、北村誠吾(熊本県宇土支部) 上田桂子(沖縄支部) 知念範樹

ふる里自慢

福岡県福岡支部

支部長 鳥巢 正行

私の故郷柳川の名称・旧跡を紹介します。

柳川城跡 立花城とも呼ばれ、文亀年間に柳川・大和・三橋地方の豪族蒲池氏が蒲池城の支城として築城、その後、慶長六年に城主となった田中吉政や立花宗茂が五重の天守閣を造り、江戸時代を通じて立花氏の居城となっていたが、明治五年失火によって焼失、現在では

柳川中学校の一角に小高い丘を残すだけで、石垣がかつての姿をしのばせるだけである。

立花家庭園(お花) 立花家の庭園松濤園は元禄十年、藩主立花監賢が日本三景の一つである松島を模して築造した。一般に「お花」と呼ばれ、

広い庭に豊富な水と岩海石、古雅な数本の松を配した名園である。(県指定名園) 冬季には数百羽の野鴨が飛来し、一層の風情をそえている。また、邸内には立花家に伝わる数々の品が展示されており、吉光作の銘刀(国宝)や長光作の剣(匡指定重要文化財)



などが含まれている。白秋生家 柳川が生んだ詩人北原白秋の生家は大きな酒造家である。現在は母屋だけ残っているが古風な土蔵造りの建築様式は貴重なもので、数多くの書画や遺品が保存されている。

(県指定史跡) 川下り水郷柳川を象徴するのが「川下り」である。高畑公園入口付近の乗船場三カ所から北原白秋生家のある沖の端まで、ひし・連・ウオーターヒヤシンスなどのある水草が生える掘割を一時間三十分、船頭のあざやかな竿さばきによるドンコ船が、白秋の詩情ただよう風物の中を下っている。三柱神社 立花宗茂と夫人千代姫、父君戸次道雪が神子を授けられたのを機に文政九年、藩主立花監賢が三神を祭るために建立した。日光東照宮の陽明門を形どった楼門、安芸の蔵

■訂正とお詫び

九月号のふるさと自慢で群馬県高崎支部の文中で二段目の五行目以下に百衣観音と記載がありますが、正しくは、白衣観音です。ご迷惑をおかけしました事を深くお詫び申し上げます。